

前年度比2割増の応募277名が海外へ

トビタテ！派遣留学生壮行会 松本文科大臣が激励

文部科学省および日本学生支援機構(JASSO)による官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」新・日本代表プログラム「大学生等対象」の第18期派遣留学生壮行会が7月18日、文科省3階講堂において開催された。

2023年度からのトビタテ！留学JAPAN「第2ステージ」では、民間企業・団体109社から約45億円の支援を受け、官民協働で若者の海外留学を支援している。第18期は前年度比で約2割増となる1481名の応募から277名を採用した。



松本文科大臣は、壮行会では、松本洋平文科大臣が挨拶し「若い頃の海外経験は、将来の可能性や選択肢を広げ、人生を豊かにできるかけがえのない機会だ。ぜひ様々な経験を通じて、皆様

にとって有意義な留学にしていきたい。第18期の皆様が留学を経験し自己研鑽に励まれ、将来的に世界を舞台に目覚ましい活躍をされることを心から期待している」と派遣留学生を激励した。続いて、支援企業・団体を代表して(株)第一ライフグループ取締役会長の稲垣精二氏が挨拶した。

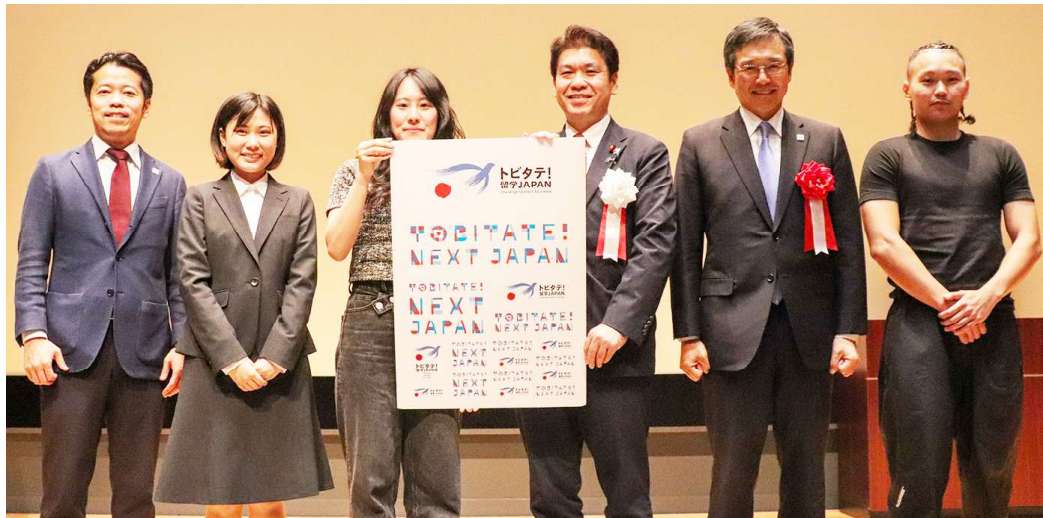
また、派遣留学生の3コース各代表が決意表明を行った。イノベーターコース代表の大砂百恵さん(小樽商科大学)は、代表を務める(株)eCombuで昆布のポテンシャルを引き出す事業に取り組んでいる。留学先のイタリアでは、昆布を食べさせたブランド豚が作れないか等、コラボ相手を探し、色々な問いを持ちながら学ぶとし、「技術を学ぶだけではなく、地域資源がどのように文化や誇り、そして産業になっていくのかを学んでいきたい」と意気込みを語った。

その後、トビタテ！留学JAPANプロジェクトディレクターの荒畦悟氏から記念品が贈呈され、記念撮影が行われた。

派遣留学生は8月以降、各々の留学計画に基づき世界へ飛び立っていく。



派遣留学生、文科省・JASSO幹部らが留学の成功を祈念(文科省3階講堂)【トビタテ！留学JAPAN提供】



トビタテ！のステッカーなど記念品贈呈後の記念撮影【トビタテ！留学JAPAN提供】